

パーソナルコンピュータ利用による青果物流通統計情報処理プログラム

(農試・経営部)

1 背景とねらい

青果物の産地形成を図るためには、需要に合った商品を生産し、販売取引に際して常に有利な位置を確保することである。そのためには、産地化する品目の出荷市場における時期別入荷量動向、価格動向及び他県産地との競合状況などを踏まえた市場対応が重要となる。そこで本県の主要な24品目についてこれらの動向を簡易かつ迅速に把握するためのプログラムを開発した。

2 内容

青果物流通統計情報処理プログラムの特徴

項目	使用資料	青果物流通統計旬報	野果果樹生産出荷統計	東京都中央卸売市場年報
統計構造	品目	野系 46品目 果実 59品目	野系 29品目 果実 17品目	野系及び加工品 119 果実及び加工品 82
市場	市場	I類都市 42区分	消費地域 18区分	東京都中央卸売市場
産地	産地	—	主産果	47都道府県
集計	集計	旬/回で翌月	旬/回で翌々月	旬/回で翌々月
入力	品目	野系 18品目 果実 6品目	野系 16品目 果実 4品目	野系 18品目 果実 6品目
市場	市場	札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、大阪	消費地域 18区分	東京都中央卸売市場
産地	産地	—	北海道、青森、岩手、福島、群馬、長野	北海道、青森、岩手、福島、群馬、長野
編集方法	データの種類、市場品目、期間を指定する。	品目、消費地域、産地、期間を指定する。	データの種類、産地、品目、期間を指定する。	
得られる情報(出力)	①市場、時期別価格差(市場を並列させて旬月、年別に出力出来る) ②品目の卸売数量価格動向(市場を限定すれば旬、月別に近年の傾向を出力出来る)	①指定消費地域での競合状況(消費地域を限定すれば競合果を並列させて月、年別の出荷量を出力出来る) ②競合果の分荷状況(産地を限定すれば近年の消費地域ごとの出荷量が月、年別に出力出来る)	①産地の競合状況(産地を並列させて月、年別に出力出来る) ②競合果の出荷状況(産地を限定すれば月別の近年の傾向を出力出来る)	
出力後の操作	データ編集後市場及び出力様式を変更し繰り返し分析可能である。	データ編集後出力様式を変更し繰り返し分析可能である。	データ編集後産地及び出力様式を変更し分析可能である。	

3. 指導上の留意事項

- 1) 分析に当たり、年度を説明変数とする一次回帰式を表示しているが、これは過去のデータに傾向変動があるかを検討するためのものであり、将来の予測に適用できるものではない。
- 2) 卸売価格は1、卸売金額を卸売数量で除いた平均価格である。
- 3) 青果物流通統計旬報を用いた月別、年別の価格は旬別平均価格の月、年の平均価格である。
- 4) 青果物流通統計旬報は中央卸売市場の市場計の値である。
- 5) 使用にあたっては、「パーソナルコンピュータ利用による青果物流通統計情報

処理プログラム解説書を参照すること。

4 参考文献・資料

- 1) 青果物流通統計旬報
- 2) 野菜・果樹生産出荷統計
- 3) 東京都中央卸売市場年報

5 試験成績

本プログラムを使用目的に応じて情報内訳を区分すれば、下表のとおりであり、産地の生産出荷計画樹立等指導上の情報把握が容易になる。

得られる情報と使用する出力様式

使用するプログラム	得られる情報	使用する出力様式《情報内訳》
青果物流通統計旬報処理プログラム	有利な市場	様式1《品目毎の市場・年別の卸売数量及び価格》
		様式2《品目毎の市場・月別の卸売数量及び価格》
		様式3《品目毎の市場・旬別の卸売数量及び価格》
	有利な出荷時期	様式4《市場毎の品目・月・年別の卸売数量及び価格》 様式5《市場毎の品目・旬・年別の卸売数量及び価格》
野菜・果樹生産出荷統計処理プログラム	他県との競合状況	様式1《消費地域毎の品目・産地・年別出荷量》 様式2《消費地域毎の品目・産地・月別出荷量》
		様式3《産地毎の品目・年・消費地域別の出荷量》 様式4《産地毎の品目・月・年・消費地域別の出荷量》
	競合県の出荷状況	様式1《品目毎の年・産地別の卸売数量及び価格》 様式2《品目毎の月・年・産地別の卸売数量及び価格》
		様式3《産地毎の品目・月・年別の卸売数量及び価格》
東京都中央卸売市場年報処理プログラム	東京都における他県との競合状況	様式1《品目毎の年・産地別の卸売数量及び価格》 様式2《品目毎の月・年・産地別の卸売数量及び価格》
	東京都における競合県の出荷状況	様式3《産地毎の品目・月・年別の卸売数量及び価格》